

—浪速タンカー株式会社—

国立館山海上技術学校の生徒たちが内航タンカーを見学

2月27日の9時30分から、千葉県館山市の館山港・夕日桟橋において、浪速タンカー株式会社主催の内航タンカー見学会が開催され、見学時の注意事項の説明を受けた国立館山海上技術学校の生徒たちが、浪速タンカー(株)所属船「NANIWA」の船内を見学した。

この見学会は、荷主であるコスモ石油株式会社の協力のもと、船員を目指す生徒たちに、将来は内航タンカー船に興味を持って就職してもらいたいとの趣旨で開催され、館山港に近い国立館山海上技術学校の生徒と先生を招き、船内を案内・説明することで内航船員の仕事と生活を理解していただいた。

船内見学では、航海計器や荷役機器装置、機関室、居住スペース、さらに乗組員から船員の業務内容や各機器の取り扱い説明が行なわれ、実際の作業を肌で感じることができた。

見学会のはじめに、浪速タンカー株式会社の嶋村賢治取締役船員部長からあいさつがあり「日本の各産業において労力が不足しており、人手不足は内航海運業界においても深刻な状況である。そのような中、人手不足で採用が難しい現状であるが、各船会社は工夫をしなければならず、今回はその一環として、船内見学を通じてタンカー船で働くことに興味を持ってもらうためにこの見学会を開催しました」と見学会の趣旨を説明した。

船内で生徒たちは、6グループに分かれ、操舵室、荷役制御室、機関制御室、機関室、居住区、甲板上の荷役設備や船首尾の係船設備など、各所で乗組員の説明を受け、航海計器や荷役設備、機関設備などの機能や役割りを学んだ。

機関室では、乗組員が実際に主機の暖機運転や発電機の調整作業などを行い、普段は見ることができない船員の仕事も見学することができた。

また甲板では、船に備え付けた防火装具を着用したほか、舵が故障した場合の非常操舵訓練や船の係船索のコイルダウン、着岸作業で使用する「もやい索発射機」の発射なども体験することができた。船内見学を終え、下船した生徒たちは、岸壁から本船が投錨する作業も見学した。

最後に浪速タンカー株式会社の佐藤佑樹船員部課長から「この見学会で得た知見を今後の勉強や就職活動に活かしてほしい」との言葉があり、見学会は終了した。

「海員だより」